

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-A-9		更新日	2025/2/20
サイト名		縄文期の宍道湖形成軌跡～佐太・講武貝塚			
基本情報	区分	☐ 有形 ☐ 無形 ☒ その他			
	所在地	松江市鹿島町名分			
	指定別	「佐太・講武貝塚」国指定			
	種別	史跡名勝天然記念物			
	指定／登録年月日	1933(昭和8)年4月13日			
	管理団体／モニタリング	松江市			
	周辺施設／アクセス	☐ トイレ ☐ 売店 ☐ 飲食店 ☐ 駐車場(台)			
	留意点				
サイトの解説	歴史・文化	佐陀川の中ほどあたり鹿島中学校の前面一帯に広がる貝塚である。山陰では数少ない貝塚の一つであり、その規模や遺物の豊富さなどから山陰を代表する縄文遺跡である。 遺物には土器、石器、骨角器などの人工的な遺物と獣骨、貝類、木の実などの自然遺物がある。 土器は縄文前期から晩期のもので確認されている。特徴のある土器は丸底や尖り気味の底をもつ条痕文土器(じょうこんもんどき)である。隠岐産黒曜石(こくようせき)で作られた石鏃(せきぞく)や石斧、おもり石などの石器も珍しい。牙玉のほか人骨の前頭部の骨片に二つの孔をあけたペンダントがある。 獣骨は猪と鹿が多く、猿もある。貝類はヤマトシジミ、アワビ、サザエなどであり、貝塚はヤマトシジミを主体としている。木の実はいしノミが採集されている。貝塚の剥ぎ取り標本、出土遺物は鹿島歴史民俗資料館で展示されている。			
	地形・地質、生物・生態等	佐太・講武貝塚は、宍道断層によってできた東西方向の谷地形と南北方向の谷地形が交わる場所にある。そのため、江戸時代(1785－1787年)に清原太兵衛(きよはら たへえ)が佐陀川を開削する以前から低地帯をなしていた。川の岸辺一帯の海拔0～1mにはヤマトシジミを中心に海棲の貝類を含む貝殻層が広がっており、海面水位が高かった縄文時代前期から中期にかけて内湾状の汽水湖が広がっていたと考えられている。貝塚に近接する遺跡の産出遺物から豊かな海と陸の生態系に恵まれた場所であったことが読み取れる。			
写真・図等					
参考文献		貝塚の断面の様子			
		鹿島歴史民俗資料館			

貝塚の断面の様子

鹿島歴史民俗資料館